

# 目 次

はじめに

本書の構成

## 序章 1945年8月15日 ————— 駒村圭吾 1

- 立憲政治の動向 ..... 2
- 歴 史 ..... 3

- 1 鈴木貫太郎内閣の成立と和平工作 4  
「若烹小鮮」の人／「今後採るべき戦争指導の基本大綱」の策定／天皇、戦争終結を  
決意するも“命令”せず——“懇談”の憲法論
- 2 ソ連を仲介国とする和平工作の挫折 8  
一向に進捗のない交渉過程／「無精卵」を温め続けて
- 3 ポツダム宣言の発出 10  
無条件降伏か、条件付降伏か／“黙殺”
- 4 ポツダム宣言の条件付受諾——第1の“聖断” 13  
議論局面は“和平の時期・方法”から“和平の条件”に移る／第1の“聖断”／8月10  
日御前会議の憲法論
- 5 連合国回答文の受諾——第2の“聖断” 18  
バーンス回答／岡本公使の緊急電報／第2の“聖断”
- 6 戦争の終結 22  
終戦過程の憲法論／8月15日／「8月15日」とは何であったか

- 文化表象 ..... 25  
ゴジラ／「日本のいちばん長い日」

## 第1章 日本国憲法の誕生(1)——新憲法の制定過程 ————— 山崎友也 28

- 立憲政治の動向 ..... 29  
敗戦と降伏／憲法改正草案要綱公表までの紆余曲折／日本国憲法の成立

## ●歴史 ..... 30

- 1 明治憲法改正の内因と外因 30  
明治憲法の限界／ポツダム宣言の内容とその受諾
- 2 マッカーサー草案の策定 33  
占領管理体制の確立／松本案のスクープとGHQの拒否／マッカーサー・ノートとマッカーサー草案の作成・提示
- 3 日本国憲法の成立 38  
3月2日案／憲法改正草案要綱（3月6日案）・帝国憲法改正草案／制憲議会（第90回帝国議会）における草案審議
- 4 日本国憲法成立の法理上の諸問題 40  
押しつけ憲法論／8月革命説

## ●文化表象 ..... 44

マッカーサーと憲法9条

## 第2章 日本国憲法の誕生(2)——新生日本の基礎形成

新井 誠 47

## ●立憲政治の動向 ..... 48

## ●歴史 ..... 49

- 1 GHQ指令による秩序形成（1945～46年） 49  
ポツダム宣言の受諾／言論統制と表現の自由／占領初期の自由主義的諸改革／「農地改革」と財産制度／行政分離体制の確立——アメリカによる沖繩統治
- 2 日本国憲法下の法制度形成（1947年～） 57  
新憲法下の新たな法制度にもとづく国家運営／「臨時法制調査会」における研究者の役割／新憲法に連動した制度改革——意義と限界
- 3 この時期の改憲論・護憲論——具体的諸制度との関連において 62  
当初の「護憲」・「改憲」論／「逆コース」の時代（1948年以降）の「護憲」・「改憲」論

## ●文化表象 ..... 66

「赤線」（1946～58年）の登場／民主化政策による（一部）官立学校の運命

## 第3章 自主憲法制定の希求と「逆コース」—— 西村裕一 69

## ●立憲政治の動向 ..... 70

● 歴 史 ..... 71

- 1 占領から講和へ 71  
占領政策の転換＝「逆コース」？／ドッジ・ラインと再軍備／講和の成立
- 2 「55年体制」の成立と第1期改憲論議 76  
再軍備の進展／改憲派の台頭／憲法調査会の設置
- 3 「護憲派」の形成 82  
平和問題談話会の全面講和論／社会党の分裂と再統一／憲法問題研究会の結成

● 文化表象 ..... 87

「死の灰」——第五福竜丸事件

▶コラム① 憲法調査会報告書の概要 西村裕一 91

第4章 60年安保闘争と民主主義 ————— 横大道聡 93

● 立憲政治の動向 ..... 94

● 歴 史 ..... 95

- 1 戦後の岸信介 95  
岸の憲法観／政界復帰から首相就任まで／安保改定という悲願
- 2 岸の政治哲学 99  
暴力追放と大衆運動／警職法改正案／数の力としての「民主主義」
- 3 改憲の動向 102  
憲法調査会と憲法問題研究会／護憲運動の安保闘争への影響
- 4 安保闘争 104  
安保改定の経過／「同床異夢」の安保反対運動
- 5 民主主義の擁護 107  
5・19の強行採決に対する岸の認識／民主主義を守る戦いへ／運動の激化／岸内閣の退陣
- 6 安保闘争を振り返る 111  
大衆運動は反民主主義的か／民主主義の理解をめぐって／安保闘争と2つの最高裁判決／安保闘争とは何だったのか

● 文化表象 ..... 115

2人の「美智子」

## 第5章 高度成長期と憲法 ————— 片桐直人 118

●立憲政治の動向 .....	120
●歴史 .....	121
1 「経済の季節」の到来——池田内閣の誕生 121	
チェンジ・オブ・ペース／安保問題の総括——第29回衆議院議員総選挙	
2 所得倍増計画 123	
岸政権下における経済計画改訂の動き／所得倍増計画の策定プロセス／政治としての経済計画／高度成長のひずみ	
3 改憲論のゆくえ 128	
政暴法案／「戦後型統治派」の改憲消極路線／内閣憲法調査会と高柳賢三——押しつけ憲法論の退潮	
4 護憲運動の転換点 132	
改憲派・護憲派それぞれの困惑／運動体分裂の危機と下からの憲法運動／裁判闘争と革新自治体への期待	
5 池田から佐藤へ 137	
佐藤政権と改憲論／「偏向裁判」批判と平賀書簡事件——「司法の危機」／青法協問題／全農林警職法判決	
6 沖縄返還と憲政 142	
サンフランシスコ講和条約前の沖縄と「憲法」／サンフランシスコ講和条約後の沖縄／沖縄復帰の「憲政」／基地の島	
7 まとめにかえて——憲政史の複線化・多層化 147	
●文化表象 .....	148
「1968」	

## 第6章 田中角栄の時代 ————— 原田一明 151

●立憲政治の動向 .....	152
●歴史 .....	153
1 田中角栄内閣への評価とはじめての所信表明演説 153	
芦部信喜からの注文／「決断と実行の政治」	
2 「ダーティーなハト」としての田中角栄 155	
田中角栄にとっての「憲法」とは？／必要最小限度の防衛力という構想／長沼ナイキ	

基地訴訟第一審違憲判決の衝撃／長沼ナイキ基地訴訟違憲判決と憲法改正論——宮沢俊義の観察

- 3 日本列島改造論とわが国の財政政策の転換点 159  
公益優先主義と副作用としての土地投機／高度経済成長からの転換の失敗——赤字国債発行の道へ／特例公債法というアイディア／田中政権後の財政問題への対応
- 4 田中内閣の国会運営——通年国会の評価と会期制 163  
通年国会という戦略／通年国会に対する否定的評価
- 5 増原防衛庁長官の内奏問題 166

●文化表象 ..... 169  
「下駄と背広」／「道路は文化だ」

## 第7章 戦後政治の総決算と自民党長期単独支配の終焉 ..... 水谷瑛嗣郎 173

●立憲政治の動向 ..... 174

●歴史 ..... 175

- 1 大統領的首相の登場——中曽根康弘 175  
「戦後政治の総決算」の意味するところ／審議会政治のはじまり／中曽根の傍らにいた「護憲派」——後藤田正晴
- 2 社会党の「現実化」路線とその終焉 180  
石橋政嗣と「自衛隊違憲合法論」／「おたかさんブーム」と現実化路線の凍結
- 3 政治改革の季節 187  
リクルート事件から政治改革へ／土井たか子による議会改革の試み
- 4 天皇の「代替わり」 190
- 5 自衛隊、海を渡る——湾岸戦争、PKO派遣、憲法9条の「かたち」 192  
冷戦終結から湾岸戦争へ／国連平和協力法案の頓挫とPKO協力法の成立

●文化表象 ..... 196  
アニメからみる「表現」と「労働＝消費」——職人共同体としての「ジブリ」／「朝まで生テレビ」という「命懸け」の「テレビ解放区」

## 第8章 混沌化する政治 ..... 岡田順太 201

●立憲政治の動向 ..... 204

## ● 歴 史 ..... 205

- 1 「失われた10年」の始まり 205
- 2 非自民連立政権の誕生から自社さ連立政権へ 206  
繰り返される離合集散と政治不信／政権交代なき二大政党制からの脱却／小選挙区制導入と政権選択選挙／衆議院の「カーボンコピー」から強すぎる参議院へ／無党派層の増大と政権交代の「幻影」
- 3 この国の「かたち」の諸相 212  
2000年代政治に向けての露払い／事前統制型から事後紛争処理型へ——「個人の自律」と「この国のかたち」／トップダウン型政策決定システムとチーム政治／安全保障情勢の変化と沖縄の基地問題
- 4 新たな改憲論議の幕開け 219
- 5 危機管理の時代 221  
想定外の大震災／安全神話の終焉と頻発するテロ・凶悪事件／危機管理は根付いたか
- 6 金融と情報の地殻変動 224  
金融ビッグバンと大蔵不祥事／情報通信技術（IT）革命／高度情報化社会と個人情報保護

## ● 文化表象 ..... 228

世紀末の風景

- ▶ コラム② 憲法調査会（2000年） 手塚崇聡 231

第9章 “変人”小泉純一郎による官邸主導型政治  
の登場 ..... 瑞慶山広大 233

## ● 立憲政治の動向 ..... 234

## ● 歴 史 ..... 235

- 1 小泉政権の誕生 235  
自民党総裁選での勝利／政権の特徴／制度的背景
- 2 国内政策 238  
構造改革の断行／官邸主導の限界
- 3 郵政民営化と「郵政解散」 243  
郵政民営化法案提出までの経緯／「郵政解散」／郵政解散の当否と影響

- 4 外交・安全保障政策 247  
9.11テロとアフガニスタン戦争／イラク戦争とその復興支援／中韓との関係の冷え込み／北朝鮮拉致問題の進展
- 5 憲法をめぐる議論の動向 254  
改憲に関する動向／女性天皇の容認論／憲法学からみた小泉政権——まとめに代えて

●文化表象 ..... 259

ゆとり教育／カメラ付きケータイ、着うた

▶コラム③ 国民投票手続法の概要 野口健格 262

## 第10章 改憲論議の高揚・停滞と「迷走する政治」

愛敬浩二 264

●立憲政治の動向 ..... 265

●歴史 ..... 266

- 1 改憲問題と「郵政選挙」 266
- 2 小泉政権下の改憲論議の高揚 267
- 3 第一次安倍政権下の憲法政治 268  
安倍政権による constitutional change の推進／小沢民主党の「野党化」と安倍政権の瓦解
- 4 憲法擁護運動の再形成——9条の会の成立と貧困問題の発見 271  
9条の会の結成と9条擁護運動の再構築／「貧困問題の発見」と小沢民主党
- 5 「ねじれ国会」から政権交代へ 273
- 6 鳩山政権への期待と「沖縄問題」 275
- 7 菅内閣への期待と失望、そして、東日本大震災 276
- 8 民主党政権の瓦解とその歴史的意味 278
- 9 政権交代への幻滅の後で 280

●文化表象 ..... 281

生きさせろ！（雨宮処凛）

▶コラム④ 自民党憲法改正草案（2012年） 手塚崇聡 285

## 第11章 熟議なき決断主義の時代？ 政治日程に のる憲法改正 ————— 青井未帆 287

- 立憲政治の動向 ..... 288
- 歴史 ..... 290
  - 1 前史——第一次安倍政権 290
  - 2 第二次安倍政権のスタート 290  
概論／特徴——人事
  - 3 安全保障政策の転換——日米同盟の変容とのかかわりで（2012年以前） 296  
同盟の「変革」／自公連立政権下／民主党政権下
  - 4 第二次安倍政権発足から参院選まで 300
  - 5 集団的自衛権行使容認に向けて——2013年8月から年末まで 301  
8月から年末へ／国家安全保障会議設置法と特定秘密保護法／NSSと25大綱
  - 6 靖国神社公式参拝 304  
首相の靖国参拝／閣僚の靖国参拝／日米同盟の一体化と歴史修正主義史観
  - 7 2014年——集団的自衛権行使容認 306  
限定容認へ／2014年5月15日
  - 8 2014年7月1日・閣議決定 308  
閣議決定へ／閣議決定の論理
  - 9 それから 311  
第二次改造安倍政権から第三次安倍政権へ／日米ガイドライン改定
- 文化表象 ..... 313
  - 首相のFacebook ページと嫌中・嫌韓
- ▶コラム⑤ 安保法制（2015年） 野口健格 315

## 終章 「忖度の政治」と憲法——令和新時代への序章 ————— 駒村圭吾 317

- 立憲政治の動向 ..... 319
- 現 状 ..... 320
  - 1 おことわり——戦後憲政史の追跡に区切りをつけるにあたって 320

- 2 平和安全法制の成立 321  
成立の経緯／カウンター・デモクラシーの可能性
- 3 改憲勢力の伸長と改憲論の進展 324  
参議院通常選挙(2016年7月)／衆議院総選挙(2017年10月22日)／外交上の重要動向
- 4 安倍一強政治の中で——改憲論の沈滞？ 330  
改憲「4項目」に関する条文素案と9条改憲論の展開／続発するスキャンダル／参議院通常選挙(2019年7月21日)／天皇明仁の生前退位と新天皇の即位
- 5 2020年、そして 333
- 6 とりあえずの結語 336

## 総括コメント

- 1 「文化的」と戦後日本  
——憲法研究会から三種の神器、そして生活保護へ—— 吉見俊哉 340
  - 1 「文化」による祖国復興 340
  - 2 社会革命としての「文化国家」建設 343
  - 3 「健康で文化的な最低限度の生活」 344
  - 4 高野岩三郎・森戸辰男と「文化的」なるもの 348
  - 5 空洞化する「文化国家／文化革命」 350
  - 6 「健康で文化的な生活」としての家庭電化 353
  - 7 再浮上する「最低限度」の生活 355
- 2 未来完了形で戦後憲法を読む  
——あるひとつのアジア的パースペクティヴ—— キム・ソンホ 359  
(駒村圭吾 訳)
  - 序 論 359
  - 1 日本から、アジア経由の日本へ 361
  - 2 世界への公約としての非武装平和主義 364
  - 3 未来へ戻る途としての象徴天皇制 368
  - 4 「われら、日本国民」 371
  - 結 論 377

## 索引